



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 米国議会審議(議会証言、議事録)(44・9・22マンスフィールド議員の上院外交委提出報告書 外務省外交史料館レファレンス番号:H222968)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.4 公開日:平成23年2月18日 外務省外交史料館管理番号:A'3.0.0.7-1(257) CD・DVD番号:H22-017
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43842
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

44
・
9
・
22
マンスフィールド議員
上院外交委員会提出報告書

ソカヒ 万博

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

157

電信写

大政事外務省
 務次 典房
 次次 臣官官審審長長
 僚僚友会管管
 人電厚計
 参調析企
 参領旅移

総番号(TA) 42319 主管
 69年9月22日20時00分 米 国 省 務 長 官
 69年9月23日09時19分 本 省 署 長 官
 外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

マンسفールド議員のアジア問題報告書

第298/号 平 至急

マンسفールド上院議員は8月比、インドネシア、ビルマ、カンボジア及びラオスの5カ国訪問後、米国のアジア政策に関する見解を記した報告書を上院外交委員会に提出したところ、同報告書が22日一般に公表された。同報告書の中でマ議員はニクソン大統領の新アジア政策の要点を記した上、アジアにおける米国の活動と諸施設の規模をいづく少すべきことを論じ、上記5カ国それぞれについて問題と対策を述べている。

また、日本について、これら諸国、ことに比、12国との関連で日本の役割にふれている。なお、オキナワについては直接にはふれていない。とりあえず。(同報告書23日発パウチで空送する)

参地中東
 参北東西
 参北北保
 参西東洋
 参西東
 参近ア
 次総経國万
 参資統國
 参政技二
 國一理
 参条協規
 参政経科
 軍社専
 参道内外
 一一二

外務省

ソカヒ 万博

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

57

電信写

大政事外務省
 務次 典房
 次次 臣官官審審長長
 僚僚友会管管
 人電厚計
 参調析企
 参領旅移

総番号(TA) 42990 主管
 69年9月25日20時47分 米 国 省 務 長 官
 69年9月26日10時12分 本 省 署 長 官
 外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

マンسفールド報告(内話)

第30/5号 極秘 至急

往電第289/号に関し。

8月中マンسفールド議員のアジア旅行に同行。そのアジア政策に関する報告書の実際の起草者たる上院外交スタッフのローウエンスタイン氏が25日キウチに語る次の通り。

1. マ報告は、ニクソン大統領が行なつたグアム島での宣言のり行を強く迫るものである。ベトナムからの撤退を促進すべきことも当然にインプライしている。ニクソン大統領のこれまでのベトナム政策は基本的には良い方向を歩んでいるが、方向だけでは不十分であり、その速度を早める必要がある。先般の36時間南爆停止はなんのことかよくわからないちや番げきである。上院外交委も段々しびれをきらしてきており、10月/5日、11月/5日に予定されている学生の反戦デーの動き等と相まって、問題は紛きゆうすべく、このあたりで何らかの手を打たなければならぬ。ニクソン大統領は北越がおれてくるべきだと信じたい

参地中東
 参北東西
 参北北保
 参西東洋
 参西東
 参近ア
 次総経國万
 参資統國
 参政技二
 國一理
 参条協規
 参政経科
 軍社専
 参道内外
 一一二

外務省

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ところだが、ホーが死のうと死ぬまいと、先方がおれてくるはずはなく、米国が先手をとるだけの労をとらなければ、昨年のテツをふむこととなる。

2. オキナワには2時間、本土には1時間着陸し、その間それぞれランパート高等弁務官とマイヤー大使とこん談した。マ上院議員はラ將軍と一面談なく不安に思っていたところ、同將軍に会い、その深慮ぶりに強くインプレッスされた。同高等弁務官及びマイヤー大使とのこん談内容については申し上げられないが、両者とも、こう直ないし後退しているものではなく、日米関係にプラスになるようにしたいと努力しており、マ議員も安心した次第である。ものわりの悪い人間が多いおりから、日本としても幸いではなかつたかと思う。

3. オキナワについての交渉は、概ね順調に推移しているときいている。核はこのままだと土たん場に持ち込まれてしまうのではなからうか。ベトナムへの発進についての72年より先きのことをとやかく言うのはどうかと思われる。案外あつさり戦争もかた付くかもしれないし、逆に如何なる緊張がもたらされるかも見当がつかない。要は日米兩國の信頼関係如何ではないかと思う。

4. 基地整理に関するサイミントン特別小委員会(マンスフィールドもそのメンバーである)は、明週からフィリッ

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ペン、ラオスの順に各週一國につきちよう問会を開く。オキナワ及び本土が論議されるのは更に先きのこととなる。(サイミントン小委員会もマ報告と同じてつ学に従つて行動するのではないかとただしたのに対し)サイミントン議員とマ議員との感觸は概ね同一といつてよく弾力的である。上院外交委全体がじゆうなんである。

5. (マ報告をみるに、フィリッピン、インドネシアの島よには力がこもり、大陸部に注力点がおかれていないとの印象を受けるが如何)今後米国は大陸部に手を出すべきでない。米国はパシフィック・パワーとしてとどまるが、それは、大陸部への通じようかい入を正当化しない。だからといつて、マ議員がラオス、ビルマ、やカンボジャに感ぬいを受けなかつたわけではない。

(7)

-3-